

市場の失敗と政府の役割

「公共経済学」第3回
別所俊一郎

今週のおはなし

2

- 理想的な条件のもとでは市場メカニズムは「効率的な資源配分」をもたらすが、
- 市場メカニズムが効率的な結果をもたらさないケースとはどのようなものか
 - 「市場の失敗」とはどのようなときに起きるか
- 市場メカニズムが「効率的な配分」を達成するとしても政府の介入が正当化されるか
 - 「メリット財」とはなにか
 - 所得再分配

所有権の定義，契約の執行

3

- 私的財産の保護，所有権の規定，契約の執行
 - 契約不履行や，所有権侵害を防ぐ仕組みを提供し，契約の履行・所有権の保護を確実にする
 - 市場経済の基盤
- 所有権が規定されなかったら？
 - 「共有地の悲劇」
 - 旧共産主義国における集団所有：「物権法」
 - 大気や水の所有権：「外部性」の問題ともいえる
- 「所有権」とはなにか？

競争の失敗

4

- **完全競争perfect competitionの仮定**
 - 各企業・個人は価格への影響力をまったく持っていない
 - 「価格を所与(与件)として」行動する
- **価格へ影響力をもつ場合**
 - 財が供給されないわけではないが「過少」供給
 - 独占 monopoly, 寡占 oligopoly
 - 独占的競争 monopolistic competition
 - 供給を制限することで価格をつり上げ, 利潤をあげる
- **価格支配力の源泉**
 - 自然独占, 戦略的行動・参入阻止
 - 差異化: 財の機能, 場所(輸送費), 情報・特許

競争の失敗

5

- 完全競争の仮定では、 $\text{限界費用} = \text{限界収入} = \text{価格}$
- 不完全競争では、 $\text{限界費用} = \text{限界収入} < \text{価格}$
 - 企業の直面する需要曲線が右下がりなので、追加的に1単位販売することによる収入は、追加的に販売される1単位の価格よりも低い
 - 費用と収入が一致するところまで追加的に生産/販売して利潤を最大化するとき、限界収入が価格より低ければ、最適な価格は限界収入より低い
 - 完全競争のケースに比べて価格は高く、生産量は少なくなる
- 平均費用が逓減するとき、 $\text{限界費用} > \text{平均費用}$ となりうる
 - 限界費用価格づけ規制をすると収支が赤字に
 - 利潤最大化のための価格は、収支均衡価格より高い限界収入

公共財

6

- 「公共的なもの」を公共財というわけではない
- 純粹公共財 pure public goods を特徴づける性質
 - 消費の非競合性: 追加的な「消費」の費用はゼロ
 - 消費の非排除性: 「消費させない」費用は無量大
 - 「完全競争」で想定されている財の性質とは異なる
- 例: 灯台
 - 非競合性: 灯台の費用は船舶の数に依存しない
 - 非排除性: 灯台の近くを通る船舶に便益を受けさせないようにするのは不可能か, きわめて困難
- 公共財の理論は次々週(5/22)に解説の予定

外部性

7

- 企業/個人の行動が他の企業/個人に影響を及ぼすと、「完全競争」の仮定は成立しない
 - 負の外部性 negative externality: 損害を及ぼす
 - 正の外部性 positive externality: 便益をもたらす
 - 費用を払わずに損害を与える/便益を享受できることになるから、損害は「過大」に、便益は「過小」になる
- 例: 大気汚染や水質汚濁
 - 負の外部性: 汚染された大気や水を消費させる費用は支払われない
- 例: 混雑
 - 負の外部性: 車が増えると渋滞が長引く。油田を掘ると他の油井からの石油が減少する
- 公共財の理論は次々々週(5/29)に解説の予定

不完備市場 incomplete markets

8

- 取引費用や情報の非対称性, リスクに起因
 - 「完全市場の仮定」では取引費用はゼロ, 情報は完全に対称
 - リスクに対する保険は完全に提供される(ヘッジされる)
- 例: 資本市場, 保険市場
 - 個人の直面するリスクに対するいくつかの保険が民間では提供されない: 地震保険, 農家収穫保険, 失業保険, インフレの保険...
 - 市場で資金を調達できない主体も存在: 中小企業, 学生...
- 不完備の原因
 - 取引費用: 市場の運営や契約の実施, 保険の開発には費用がかかる
 - 情報の非対称性, 契約の実施(再交渉の可能性)
 - 売り手が買い手のことをよく知らない
 - 逆選択 adverse selectionやmoral hazard

不完全情報

9

- **協調の失敗** coordination failure
 - 戦略的な状況にあるとき, 都市再開発計画などは失敗するかも
 - 相手の状況がわからないという「情報の非対称性」に起因
- **情報の過少供給, R&D**
 - 情報公開規制の存在: 買い手が製品のことをよく知らない
 - 情報は多くの場合公共財: (例) 気象予報

- 情報の非対称性の問題については6月後半～7月に扱う予定

マクロ的な不均衡

10

- 失業・インフレーション・景気循環
 - 「何かが」うまく機能していないことの一応の証拠であると考えられることが多い
 - 失業の問題も「不完全情報」や「不完備市場」の一つの例と考えられている

- 市場の失敗たちのつながり
 - それぞれの「失敗」は所有権の規定、情報などの原因が相互に関連して説明される

所得再分配とメリット財

11

- 市場メカニズムが「効率的な資源配分」をもたらすとしても政府が介入する余地があるかもしれない
 - 所得分配: パレート基準は不平等については語らない
 - 価値財 merit goods: 個人の厚生判断は「正しい」のか疑わしい
- 所得再分配
 - 所得再分配は現在の政府の果たす機能のかなりの部分を占める
 - 生活保護, 年金, 医療, 教育...
- 温情主義 paternalism
 - 政府は個人にとっての最善を本人よりも知っているから介入すべき
- 自由主義 libertarianism
 - 温情主義を機能させるべきときとそうでないときは区別できず, 利益集団の介入を招くので望ましくない

自由主義の留意点と政府の役割

12

- 自由主義への留意点
 - 子供の意思決定:初等教育や基本的な医療の保証は誰の責任か
 - 愚かな決定をした人々を救済しないわけにはいかない:サマリア人のジレンマ
 - 何らかの「奨励」「強制」を行う必要性があることも
- 政府の役割の規範分析
 - 原理的に政府がパレート改善できるか
 - 現実の政治過程・官僚機構がパレート改善を達成できるか
 - 政府部門の直面する情報制約, 取引費用, 「政府の失敗」
- 政府の役割の実証分析
 - 政策の掲げる「目的」とその効果に乖離はないか?
 - 「市場の失敗の是正」を掲げた所得再分配が行われる可能性